



奥出雲町長 勝田康則

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えになりましたことと、心からお慶びを申し上げます。

先の町長選挙におきまして、各方面からの温かいご支援を賜り、引き続き2期目の町政を担わせていただくことになりました。これまでの経験を活かしながら、活気あふれる魅力あるまちづくりのため、全力で町政運営に取り組みたい所存でございます。

昨年は、日本各地で災害が発生し、多くの方々が被災され、犠牲となられました。心よりご冥福をお祈りしますとともに、被災者の方にお見舞い申し上げます。一日も早い復興・復旧を願うところであります。本町におきましても、7月の西日本豪雨や9月の台風24号などの影響により、道路・河川・農地な

どで多くの被害が発生しました。災害に強いまちづくりに取り組んでまいりたいと思っております。

さて、私たちの住む奥出雲町は人口減少や少子高齢化が進展するなかで、若者や女性の方も含め、町民と行政が心を一つにして、住み続けたいと思える「まちづくり」に取り組んでいくことが大切です。その一環として、昨年11月に、これまで実施してまいりました町政座談会から趣向を変え、各地区から約50名の皆様にお集まりいただき、奥出雲町タウンミーティングを開催し、ご意見を伺いました。

当日は「奥出雲らしい子育て」、「木次線のある暮らし」、「自宅で長く健康で住み続けること」の3つのテーマで、皆様が普段の生活の中で感じていること、課題解決に向けて自らができることなど、

意見を話し合っていたいただきました。いずれのテーマも、本町だけではなく、全国の中山間地域でも課題となっているものであり、現在、町内各地区で進めていただいております「小さな拠点づくり」の取り組みにもつながるものと考えております。

この場で頂戴しましたご意見やご提案を、今後役場内でも議論し、町政運営に反映させてまいります。次に世界・日本農業遺産についてです。「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」として、昨年6月に、世界・日本農業遺産の認定申請を行い、一次審査を通過し、9月には世界農業遺産等専門家会議の委員の皆様による現地調査が実施されました。今月、東京で行われます二次審査を経て、2月に結果が発表される予定となっております。

この登録により奥出雲の農産物のブランド化や観光資源の付加価値の向上を目指し、奥出雲町を国内、そして世界に向けて発信し、地域振興・観光振興へと繋げたいと考えております。

次に雇用対策についてです。昨年12月には、深刻化する人手不足や人材の流出などの問題に対して、町内企業、教育機関、行政などが

連携し、人材確保策などについて、情報交換、協議する場として奥出雲町雇用対策連絡会を設置しました。この連絡会により、関係機関がネットワークを構築し、本町の雇用対策と労働力確保をより強力に進めてまいります。

次にご当地ナンバーの取り組みについてです。2020年度に向けて、出雲市、飯南町とともに本町においても、「出雲」ナンバーの導入が決定しております。昨年11月に、公募により集まった155点の中から、出雲神話に登場するヤマタノオロチを虹色で表現した図柄が選ばれました。この図柄を国へ申請し、審査を経て正式に決定されます。

さて、本町の平成30年度の一般会計予算は、12月の補正後で149億8900万円を計上することになりました。今後もより一層健全で持続可能な財政運営を図りながら、生活基盤の整備、雇用対策、定住対策、子育て支援など、当面する諸課題に対応してまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、明るく希望に満ちた幸多き年となることを祈念して年頭のごあいさつといたします。

第50回全国高等学校選抜ホッケー大会

横田高校男子が準優勝!!

12月22日から26日に大阪府で開催された第50回全国高等学校選抜ホッケー大会において、横田高校男子ホッケー部が準優勝しました。



▲横田高校男子ホッケー部の皆さん

決勝戦では、栃木県今市高校と対戦し、第1クォーターで先制点を決められた後、一進一退の攻防が続き、0対1で第4クォーターを迎えました。開始6分、9分にペナルティコーナーから立て続けに横田高校がゴールを決め逆転に成功。しかし、試合終了間際に今市高校がゴールを決め同点に迫いつきシュートアウト戦となりました。シュートアウト戦でも選手たちは攻守に全力を尽くしましたが惜敗し、準優勝となりました。

27日に横田コミュニティセンターと役員多庁舎で行われた報告会には、多くの町民が駆けつけ、これまでの活躍を賞賛しました。石原貴幸主将は「あと一步のところで優勝には届かなかったが、この結果を残せたのは部員、先生、保護者、地域の方々の支えや応援があったからだ。3年生は最後の大会となるが、1・2年生はこの悔しさを忘れず全国制覇を目指してほしい」と話し、これまでの感謝を伝え、後輩に後を託しました。

内閣官房ホストタウンアクション

インドとのホッケー交流

2020年東京五輪でインドチームの事前キャンプ誘致を目指す本町は、外務省の国際交流プログラムを活用し、インドでホッケーをしている高校生と横田高校ホッケー部とのホッケー交流を行いました。

インドからは、ホッケー競技に取り組んでいる4校の男子10人、3校の女子8人が訪れ、12月6日から10日にかけて、町内視察や文化体験、町内の家庭でホームステ

イなどを行い、日本への理解を深めました。

8日は、三成公園ホッケー場で横田高校ホッケー部と親善試合を行いました。ウォーミングアップを一緒に行った後、雪が舞う中、コートで熱戦を繰り広げました。ごちなかつたコミュニケーションも試合を重ねるにつれ自然となり、ホッケーを通じて交流を深め、信頼関係を築ききっかけとなりました。

